

経営比較分析表（令和2年度決算）

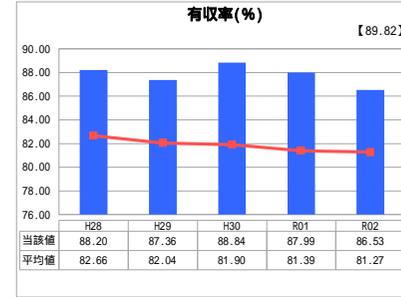
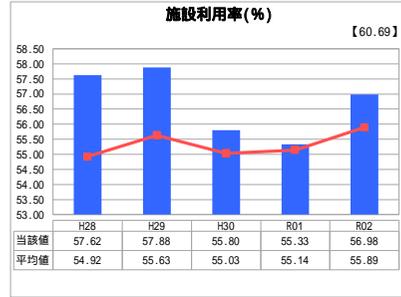
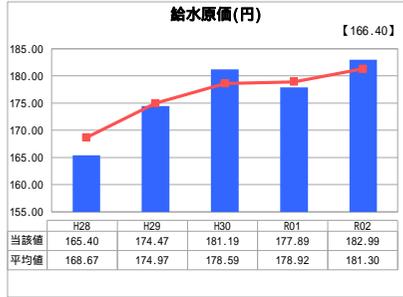
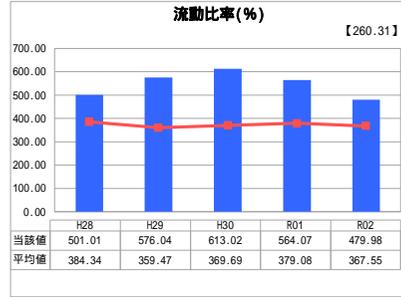
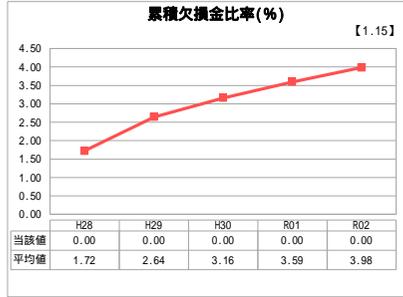
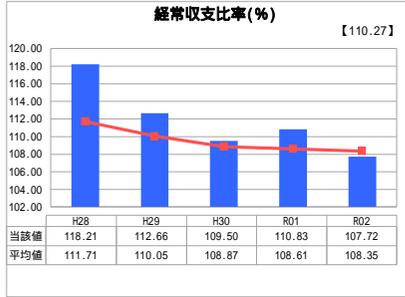
佐賀県 有田町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	74.16	99.37	3,861	

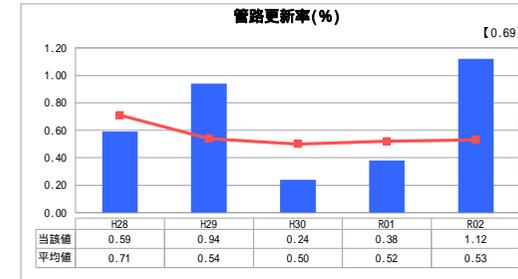
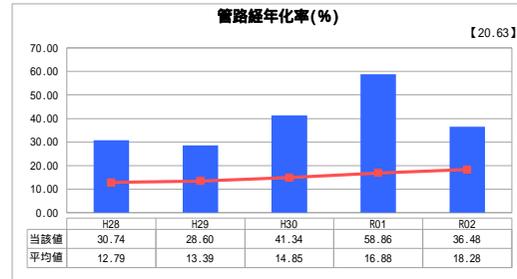
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
19,501	65.85	296.14
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
19,267	65.80	292.81

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
● 類似団体平均値(平均値)
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和2年度の経常収支比率は107.72%で収支は黒字であるが、施設や管路の修繕等の費用が増加し前年度より減少した。さらに、管路更新に係る費用の増加が見込まれるため、給水収益以外の収入として平成27年度より企業債の借入れを行っている。給水原価の増加については、ここ数年管路や施設の改修や更新等費用が増加しているためである。また、令和2年度の料金回収率は105.51%となり、他の類似団体の平均値と比較して高い水準を保っているが、人口減少が続いており、これ以上の収入増は望めないことから、施設の更新費用を賄うための資金が枯渇しないように対策を検討していく必要がある。また、施設利用率については、昨年度より増加しているが、遊休状態の施設もあるため将来的には施設の統廃合・ダウンサイジング等の検討も考えていく。施設利用率については、本管からの漏水が多発し昨年度より減少した。このため漏水調査等により漏水箇所を早期発見により有収率を回復するよう努めていく。

2. 老朽化の状況について

管路経年化率は令和2年度は36.48%で昨年度より減少したが、類似団体の平均値より高く老朽化が進んでいる。管路の更新については、漏水調査や道路整備等の他の公共事業にあわせて実施しているが、予算も限られており施設の修繕及び更新の方に費用がかかっており管路の更新が進んでいないためである。このため、今後できるだけ策定したアセットマネジメントを基に浄水場を含めた計画的な施設や管路の更新に努めていく。

全体総括

現在は黒字で経営を続けているが、人口減少に伴い給水収益が減少し、浄水場などの施設及び管路の老朽化により更新費用の増加が見込まれ水道事業の今後は明るくない。また、平成26年度までは施設の更新時に大幅な企業債借入れは控えていたが、平成27年度からは借入れを行い単年度の負担を軽減しながら現金を確保している。今後は該当する事業等があれば国庫補助金も活用できないか検討する。料金単価については、現在の経常収支比率が良くても、自己資金による施設更新等のための建設改良費が大きければ現金は目減りするため、施設更新及び債償還を含めた将来計画の策定が必要となる。